

解 答



- 問一 夏の一か月 問二 夏の声聞く（息子の夏休み） 問三 都会の生活
 問四 胸が躍る 問五 静寂がたもてる〔点。〕
 問六 ウ 問七 イ 問八 エ
 問九 そして今も 問十 いない



- 問一 ア きんせん イ けねん ウ せいぎょ エ はんらん オ すいそう
 問二 イ 問三 エ 問四 A 〔縦〕横〔無〕尽 B 〔直〕立〔不〕動
 問五 人と人との 問六 ア 問七 ウ 問八 ア 問九 これはお互 問十 ウ



- 問一 ア 衝突 イ 散乱 ウ 隔離 エ 対処 オ 指摘
 問二 A イ B ア C ウ D オ E エ 問三 ウ 問四 ウ
 問五 イ 問六 子どもが自 問七 居間と両親 問八 専制政治
 問九 親の管理からの逃げ場 問十 ウ
 問十一 それだけで自足するような子ども部屋をあてがうと、子どもがハングリーでなくなり、成長しなくなるおそれがあるので、家庭の中での避難所となる自分だけの空間を少し与える程度でよい。

解 説



- 問一 仕事を終わらせたあとに何が待っているかと考えるといいでしょう。
 問二 「六月のカレンダーがめくられ」と「梅雨が明け」とが同じ、「夏の声聞く」と「夏空に白い雲がひろがる」とが同じだと考えることもできるでしょう。どちらも、いかにも本格的な夏のおとずれを文学的に表現したことばです。しかし、「夏の声聞く」と、そわそわしはじめます」という記述と「梅雨が明け、夏空に白い雲がひろがると、さあ、荷物のしたく！」という記述とに着目すると、厳密には時期がちがうと考えられます。「夏の声聞く」のは七月のはじめ、筆者が「かなりのスピードで仕事を」する時期です。一方、「夏空に白い雲がひろがる」のは仕事が終わったころだと考えられます。そうすると、答えは「息子の夏休み」なのかもしれません。
 問三 それまでの生活からはなれることを「解放感」と感じているのでしょう。
 問五 直後に「大きな病院……静寂がたもてるからです」と書かれています。
 問六 「たおやか」とは、しなやかなさまを表すことばです。
 問七 時間が止まれば、その瞬間がいつまでも、永遠につづくことになります。
 問八 「無心」とは何も考えないことです。
 問九 もう一度「……悲しい気持ちになります」とくり返している一文があります。
 問十 「住んでいるときも」の対になることばは「住んでいないときも」です。この部分は「そして、帰ってきてからも……思ったりします」という内容を受けています。



- 問二 「不要なものも多く」ということばに着目しましょう。
 問三 「恨むどころか」とありますから、「恨む」と反対のことばを入れます。
 問五 「教育というものの本質」を語っているわけですから、「教育の基本は……大事なものです」に着目しましょう。
 問六 はじめに「新しい産業のためにＩＴ（情報技術）の必要性が叫ばれています」と書かれていることに着目しましょう。「新しい産業のために」、ＩＴ革命が進められ、ウェブが張りめぐられ、縦横無尽に情報が走り回る状態が作り出されているのだと、筆者は考えています。
 問七 「誤りと思われるもの」ということばを見落とさないことです。筆者はＩＴと教育とは相容れないものだと考え、虫や蝶にたとえて、人間が自由に飛ぶことができなくなると表現しています。さらに、「脳皮質……機能低下を起こす」とも考えています。
 問九 「向かい合う」ということばに着目すると、「これは……向かい合うことなのです」という一文が見つかります。
 問十 「日本人もまた……誇りを持ったうえで」と書かれていますから、アメリカ人はアメリカ人としての誇りを持って…ということを「星条旗を胸に」と表現しているのだと考えられます。



- 問三 この段落が「しかし、いつもこの程度で済むのなら……」という書き出しではじまっていることから、この段落

にはよくない例が書かれているのだろうと見当がつきます。

問四 「身近に子どもの存在を感じとる一瞬」と筆者は認識していますから、「うれしくなる」がいいでしょう。

問五 ベッドを人間のよう表現しています。

問六 「子どもが自室に閉じこもるのは……現れだろう」とその理由が述べられている一文があります

問七 「居間と両親の寝室のどちらからも近いところに子ども部屋があるとよい」とはっきり書かれています。これを設問にあわせると「居間と両親の寝室のどちらからも近いところ」が答えとなります。

問八 「大人の都合」ということばに着目すると、「大人の方の都合による専制政治になってしまう」ということばがみつかります。

問九 「親に完全管理される……嫌う」ということばに着目しましょう。そんな子どもたちには「親の管理からの逃げ場」がひつようだということになります。

問十 子ども部屋は「避難所としてのほくら程度のもの」でいいという筆者の主張と、その根拠としての「それだけで自足する部屋を与えるとハングリーでなくなってしまう」「子どもは成長しなくなる」などをまとめるといいでしょう。